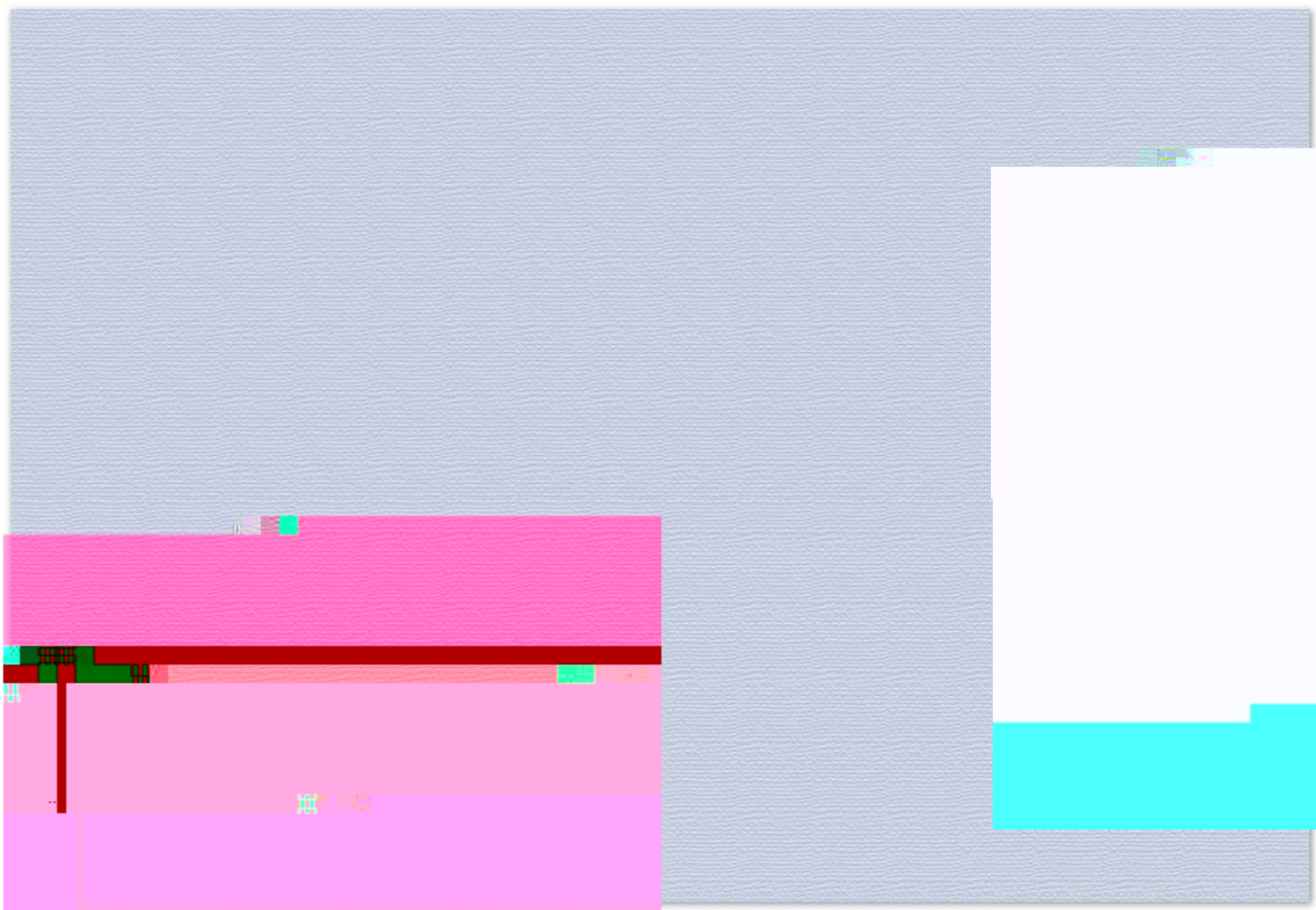


放射能社会復興コース  
森山 信彰  
医歯薬保健学研究科  
理学療法士

## ～国際的な視野で放射線災害復興を 推進する人材を目指す～



採択以降、バタバタと、しかしながら着実に準備を進め、昨年10月に一期生を迎え入れ、歩みを進めています。今後、リトリートや短期フィールドワーク、米国オークリッジREACTS研修等盛りだくさんのカリキュラム。学生にもスタッフにとっても、アツイ季節になりそうです！

本コースライター発刊準備に着手した新緑の季節、広大には多くの花々が萌える木々の中に

# 広島大学

Phoenix Letter  
Vol.01  
June 2013

博士課程教育リーディングプログラム  
放射線災害復興を推進するフェニックスリーダー育成プログラム

### Contents

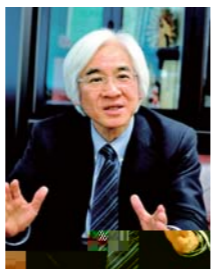
President's voice	.....P.1
Program coordinator's voice	.....P.1
Current Activity Report	.....P.2/3
Student's voice	.....P.4

放射線の産業、医療、エネルギー分野での利用は、私達の生活に多大な恩恵をもたらすと同時に、それに伴う災害の危険性も増えています。また最近ではあつてはならない核テロも懸念されています。東京電力福島第一原発事故は多くの教訓を我々に与え、世界に広く展開し、さらに計画されようとしている原子力発電所の事故への備えや予防は重要な人類の課題といえます。さらには、医療の高度化は放射線診断の質を向上させ、

軌伐  
以契4  
リ抑質延  
嬭  
系そ

広島大学大学院に設置された「放射線災害復興を推進するフェニックスリーダー育成プログラム」は、平成23年度文部科学省「博士課程教育リーディングプログラム」に採択された大型教育プログラムです。放射線災害復興学は世界的にも喫緊の課題とされる学問領域であり、広島大学は世界的にその先鞭をつけます。

### Program coordinator & Voice



プログラムコーディネーター  
神谷 研二  
広島大学 副学長  
(復興支援・被ばく医療担当)  
(福島県立医科大学 副学長)

本プログラムは、3つのコースで組み上がっています。放射線災害の医療や放射線リスクを統括できる人の養成(放射線災害医療コース)、環境放射線の科学を理解し統括できる人の養成(放射線環境保全コース)、社会全体を復興させるために、社会科学をベースにした知識や教育、特に子供の健全な育成を統括できる人の養成(放射線社会復興コース)の3つです。本プログラムに入学した学生は放射線災害復興のグローバルリーダーを目指し、先述の3つのコースから学生個人ごとの専門分野に応じて2つのコースを選択し専門性を深化させると共に、他のコースの授業も習学します。これは、放射線災害復興には非常に幅広い学術分野の知識が必要となるためです。それはかりでなく、統合化する、また、全体を俯瞰する能力を持たないと放射線災害からの復興をマネージできないのです。

そのために、本プログラムではインターネットやフィールドワークなど、非常に「現場」を重視したカリキュラムを設定しています。できるだけフィー

ルドに出て、そこでの経験を通して実際の知識や能力を身に付けようという、いわば実践力を養う教育に主眼をおいています。これは、私たちの経験に基づいています。広島大学は西日本ブロック唯一の三次被ばく医療機関として、福島第一原発事故発生以降これまでに延べ1300人以上を派遣し、被ばく評価、環境放射線量測定、健康相談、講演活動等を実施してきました。学術研究のみならず、実際にフィールドに出て、このような現場に行っているのはまさしく、人の問題です。こんなに人が不安に思っている、こんなに苦しんでいる、生活が破壊されている、そうした「ナマの声」、  
「ナマの現場」を経験することではじめて問題の所存がわかり、使命感がより強くなり、取り組むべき課題が具体的に見えてきます。

プログラムには、熱意のある、志の高い優秀な人にも是非来てもらいたいですね。そして将来はグローバルに活躍して欲しい。I.A.E.AやWHOといった国際機関でキャリアパスを積んで、国際舞台で放射線災害復興の要になつて欲しい。そして単に学術的ではなく、実際に現地の「人」の役に立ちたい。それでこそ科学であり学問です。そういう人材を養成していきます。

# Current Activity Report

## 2013年1月~5月

### 1月22~28日

平成25年10月入学 フェニックスリーダー育成プログラム入学募集受付

### 2月5日

平成25年10月入学 フェニックスリーダー育成プログラム入学試験一次審査(書類審査)

### 2月10日

フェニックスリーダー育成プログラム 外部評価委員会を開催

### 2月10、11日

フェニックスリーダー育成プログラム 第2回国際シンポジウムを開催

### 2月16、17日

平成25年10月入学 フェニックスリーダー育成プログラム入学試験二次審査(面接審査)

### 2月25、26日

オークリッジ科学研究所放射線緊急時支援センターの視察

### 2月28、3月1日

インドネシア 原子力・エネルギー庁等の視察

### 2月25日~4月5日

所属学生のフロリダ州立大学 語学研修

### 3月15、16日

博士課程教育リーディングプログラムフォーラム2012への参加

### 4月

平成24年度入学 第一期生の1年次後期開始

### 4月9日

キャンパス内にプログラム院生室を設置

### 5月

平成25年10月入学 二次募集説明会開催  
17日 広島大学 福岡オフィス  
24日 広島大学 大阪オフィス  
29日 福島ビューホテル  
31日 広島大学 東京オフィス

## 2月10日 フェニックスリーダー育成プログラム外部評価委員会を開催

外部評価委員として、柴田徳思氏(株)千代田テクニカル大洗研究所研究主幹)、長瀧重信氏(公益財団法人放射線影響協会理事長)、宮川清氏(東京大学大学院医学系研究科教授)、山下隆氏(中国経済連合会会長)、Dr. Albert Lee Wiley(オークリッジ放射線緊急時支援センター/訓練施設(REAC/TS)医療、(RI/EPÖ) 徴収、



リーガロイヤルホテル広島にて

## 2月10、11日 フェニックスリーダー育成プログラム 第2回国際シンポジウムを開催



浅原学長挨拶



ポスターセッションの様子

国内外から研究者、教育関係者、学生など約120名が参加しました。開会式での、池田貴城文部科学省高等教育局大学振興課長のご挨拶、浅原利正学長、岡本哲治プログラム責任者の挨拶の後、下條信輔教授(カリフォルニア工科大学)およびRethy K. Chhem健康部長(IAEA)による基調講演に続き、シンポジストとして、Jacques Lochard博士(ICRP 第4委員会委員長)、柴田徳思博士(株)千代田テクニカル大洗研究所)、野原精一博士(国立環境研究所生態機能評価研究室)、Albert Lee Wiley博士(REAC/TS医療・技術理事)、

Tom K. Hei教授(コロンビア大学)による医学・医療面、環境面、社会科学面に関する分野横断的な講演と活発なディスカッションが行われ、今後私たちが成すべき課題が明らかにされました。

2月11日には、プログラム所属学生を含むポスターセッション(40題)での活発な議論の後に、下條信輔教授(カリフォルニア工科大学)、Rethy K. Chhem健康部長(IAEA)、神谷研二プログラムコーディネーター、そしてプログラム所属学生3名による「科学・技術は安心・安全の社会構築にどのような貢献ができるか?」について活発なパネルディスカッションが行われ、グローバルリーダーを目指す学生たちの高い意欲と志が改めて示されました。

最後に、神谷研二プログラムコーディネーターが「プログラム所属学生が復興に向けたグローバルリーダーとして活躍することを信じている」と締めくくられ、大盛況の内に幕を閉じました。



広島国際会議場にて

## 4月9日 東広島キャンパス・霞キャンパス内にプログラム院生室を設置

放射線災害復興を推進するフェニックスリーダーとして世界に羽ばたくための「巣」として、広島大学東広島キャンパス、そして霞キャンパスのそれぞれのキャンパスに占有の院生室を設置しました。自学自習を行うためのスペースとして活用することももちろん、グループでの討論や担当教員を交えての意見交換やディスカッションの場としても大いに活用することが出来る占有のスペースです。



東広島キャンパス院生室



霞キャンパス院生室

## 2月25、26日 オークリッジ科学研究所放射線緊急時支援センターの視察

アメリカ合衆国テネシー州に位置するオークリッジ科学研究所放射線緊急時支援センターは、放射線災害発生時に対処するための、基礎的、そして応用的なトレーニングコースを実際に対処している現場を用いて習学出来る世界的にも非常にユニークな施設です。



トレーニングセンターの概観

本プログラム所属学生が放射線災害復興のグローバルリーダーとして活躍するためには、自身の専門分野の如何に関わらず、緊急時対応能力を身につけることは非常に重要であるために、センターの視察を



トレーニングコースのひとつ

行い事務レベルでの打ち合わせを行いました。センター長である、Dr. Wiley博士は、本プログラムに大きな関心と期待を示され、トレーニングコースへの参加やインターンシップに協力いただけることとなりました。

2013年6月、そして8月に学生を派遣してトレーニングコースを習学することが予定されており、次号にてその詳細な報告を掲載予定です。

## 2月28、3月1日 インドネシア 原子力・エネルギー庁等の視察



私たちは2013年2月25日~2013年4月5日の日程でアメリカ合衆国フロリダ州タラハシーの英語のradiation safety and Metrology(BATAN)な



プログラム所属学生

クラスのみならず...

要を説明するとともに、入学試験の広報活動及び現地からの志願者の面接等についての連絡及び調整を行い、出願者への広報及びプログラムへの協力について了承いただき、学生の長期インターンシップの受入れについても、協力いただけることとなりました。

また、BOS財団、そしてNational Resources Conservation Technology Research Centerにおいても同様に優秀学生への広報等を協力いただけることとなりました。